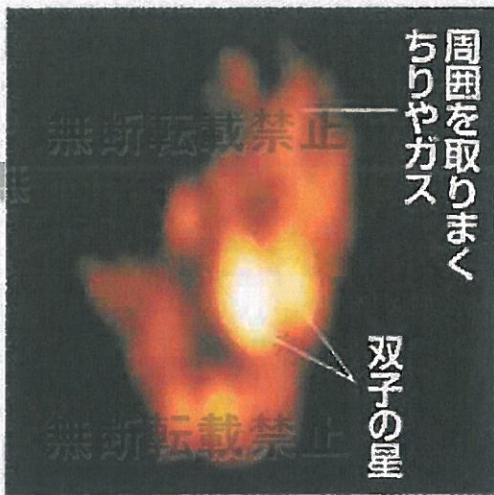


双子星の赤ちゃん

国立天文台などの研究チームは、生まれて間もない双子の星が、ちりやガスを吸収して成長していく様子を、世界で初めてとらえたと発表した。南米チリの高山にある世界最高性能の電波望遠鏡「ALMA」で観測した。

双子星は「L1551NE」と呼ばれ、地球から約460光年離れている。観測施設を運営する「合同アルマ観測所」が発表した写真には、大小二つの星が並び、その周囲をちりやガスが取り巻いている様子が写っていた。



周囲を取りまく
ちりやガス

双子の星

合同アルマ観測所提供

研究チームの松本倫明^{ともあき}・法政大教授によると、双子星は生まれて約10万年で、寿命は約100億年と考えられるという。

チリの望遠鏡で観測